



ようこそ、豊後国大分・由布院へ！

豊後富士・由布岳と鶴見岳を望む (筆者撮)

## 1. はじめに

山口大学ワンダーフォーゲル (WV) 部の創部から早いもので、今年で 60 年が経過する。筆者は既に傘寿を迎えて、遠い過去を振り返るとき、それはまさに「仰ぎ見て遙か、顧みて一瞬」の心境である。この度、九州支部主管による 3 年振りの OB 鳳翔会総会の開催に当たり、WV 創部 60 周年記念を祝して創立期の談話時間を持つこととなった。ここで 1962 年 (S37) から筆者の在籍した 4 年間 (1966 年 3 月卒) つまり第一～第三・四期執行部による活動期間 (1962～1966 年) を創立期として振り返ってみることとした。

なお、その後の 1966 ～70 年 (S41 ～45 年) 代の活動状況に関しては、昭和

45年卒同期会メンバー（代表、第三代OB会長武富氏、経済学部昭和45年卒）により、『山大ワングル思い出のアルバム～笑顔がいっぱい、輝いていた青春』と題した楽しい報告が、ワングルホームページに掲載されている（2022/8/25付）。

こうして部活の変遷を振り返るにあたり、既に忘却の彼方にある記憶の断片を繋ぐ。その手助けになるものは、手元にある既にセピア色に変色した懐かしい写真と当時を語る数冊の機関誌初期『鳳翩』、『あるきの記』、復刻『鳳翩』などの貴重な記録である。さらに、WV部創立者の一人であり初代主将を務められた九州支部の名誉支部長の永沼氏によりまとめられた貴重な写真記録がある（山口大学WV部創部期の活動記録写真、我が青春の街、山口CD、2011, 2012, 2015）。

なお、これまでの機関誌にある部活年度（主将在任期）ごとの春・夏合宿を中心とした活動記録などを参考に、創立期の三学部（本部・工学部・農学部）の活動を西暦年ごとに表に整理し、本文写真途中に挿入した。

さてまず唐突であるが、古い懐かしい写真を掲載し思い出話を語るにあたり、当時の筆者の周辺を語る。1962年(S37)4月入学時に、大学生活の記録用に、ハーフフィルムで倍枚数撮れる便利で人気の小型カメラ（オリンパス・ペンS）を購入し、被写体にかまわずいろいろなものを撮って楽しんでた。当時撮ったそれらの写真の多くは既にセピア色に変色しているが、不思議と撮ったときの周りの風景を覚えている。本文表紙の北アルプス連峰の写真もその1つであり、瞬間のシャッターの音さえ今も聞こえてくるようである。

セピア色と言えば、当時寒い冬の日、よく部員宅の暗い押し入れの中で写真焼き付けしたときのことを思い出す。冷たい現像液の中に浸けた印画紙に、セピア色からやがて少しづつ黒くはっきりと浮かび上がる映像に熱中したものである。それが山の景色か女性の姿の場合はとくに熱がはいった。卒業後にはカメラは当時流行の一眼レフ・アサヒペンタックスに変わり、さらに海外観光用に便利なデジカメ（キャノン）などを用いてきた。今はもう、もっぱらスマホのカメラ機能で済ませている。余談であるが、以前に同じ被写体を一眼レフ、デジカメ、スマホの三者で比較してみたが、被写体によってはあまり遜色が無いことを知り、近年の映像技術の進歩に驚いた次第である。

なお、話ははじめから少し横道にそれたが、今回本文と共に示すいろいろな写真の中には既刊のWV部機関誌やホームページなどに掲載されたものも多々あるが、『創立期を振り返る』という話の内容上、ご容赦頂きたい。さらに、今回掲載された写真の中の懐かしい顔々には、すでに逝去された方々もあり、改めてご冥福をお祈り申し上げる次第です。また、記憶の断片で、継ぎはきの内容と活字のホントやポイントも不揃いで読みにくいところをご容赦頂きたい。

## 2. WV 創部の経緯

さて本題である WV 創部の経緯と創立期の活動の話に入る。なお、創部の時期については、「結成準備会」、「決起集会」さらに「体育会・学友会組織入会」などどの時点をもって言うかは曖昧である。しかし、どのようにして WV 部が誕生したかについては、既に三学部の創立期の諸先輩たちにより、それぞれ WV 部機関誌（「鳳翮」創刊号、1963・S38 年 2 月、「あるきの記」創部 50 周年特別号、2012・S24 年 8 月）にも記載されている。筆者も入部 1 年当時直接話聞いたことの一部は記憶もあるので、少しだけ感想を述べることにする。

話によると、ほとんど同じ時期に山口（経済・文理・教育学部）、宇部（工学部）、長府（農学部）の 3 つの山好き仲間グループで、「ワンダーフォーゲルなる部を作りたい」という話が自然発生的に持ち上がって来たという。その気運は山口（鳳陽寮）、宇部（常盤寮）、長府（松原寮）で各寮を中心に、それぞれ別々に有志たちへと伝わっていったようである。創部の具体的な話し合いは、山口では 1962 年 2 月 20 日に喫茶店「ヴィーナス」に顧問を含め 20 余名が集まったという。敢えて言うなら、その日が「山大 WV 部記念日」と言うことになろう。一方、宇部では 1961 年 11 月に 9 名の有志が集まり、年明けて 3 月には既に活動を開始している。さらに、長府でも 1961 年秋に、具体的な月日は定かではないが 18 名余り（全学部生 180 名中）が集まったそうであるが、正式な部結成は 1962 年 5 月であり、同年 9 月に再編成したと記録に残る。

いずれにしても、同じ大学で学部キャンパスが遠く離れていた（いわゆる「たこ足大学」）にもかかわらず、たまたまほとんど同じ時期に、別個に WV 部を立ち上げようとする声が出たのは偶然であり、そのような時代の流れ、山口大学 WV 部においてはそういう誕生の運命だったのであろうか。時代の流れと言えば、戦前期にドイツの青少年の野外運動として起こった Wander Vogel (WV、渡り鳥) 活動が日本に入り、戦後となってちょうど関東の私立大学の体育会部活動として浸透した。山大 WV 創部はちょうどそれらの波が関西から中国・四国の大学へと波及していった年代の頃のことであった。

## 3. WV 部の体育会入会

誕生して早々の当時の WV 部（正確には WV 同好会）の大学体育会入会（1962 年 5, 6 月頃）のいきさつについては、初代主将永沼氏により WV 機関誌の中で、「他の部からいろいろ興味や批判が寄せられたが、部活動として“雪山とロックはやらない”と答えたといった内容が語られている（「あるきの記」創部 50 周年特別号祝辞、P. 6、2012）。

筆者も体育会入会 2 年目となる 1963 年秋の定例の体育会連絡協議会に第三期主将として出席した時のことを思い出す。当会議で顔を合わせた山岳部や他部の同期主将たちから、「加藤、ワングルは山や半島で楽しそうでええの一、マッチェンも大勢いるし！」と羨望と皮肉まじりの声を聞かされた。確かに、当時山岳部などでは部員が 7、8 名と少なく、山行パーティー編成に困るほどであったようだ (WV 部は部員数 84 名)。当時経済学部にあつた学生ホール (後年焼失) に並ぶ衝立間仕切りの体育系・文系部室の並ぶ中で、WV 部室ではいつも誰かが居て賑やかで笑い声が絶えなかった。何せ、授業には出なくても部室には必ず顔を出して皆とだべって行く部員もいたようなわけで、部室に行けば誰かに会えるわけで、楽しくないはずはなかった。

#### 4. 部活動の葛藤

1962 年創部当初、勿論 WV 活動はまだ定着していなくて、野山での部活動の内容に聊かの疑問が無いわけではなかった。新入部員各人の入部の時期とその動機はいろいろであり、WV 活動についての期待はそれぞれ日毎に広がっていった。大学一般学生や部内部員の一部でさえ、WV 活動って何？ 山岳部の亜流でなく、冒険・探検、発掘から民族・考古学や古代・郷土史探訪など多様な活動への期待の声さえあつた頃である。そのことは、WV 活動発祥の理念からは少しそれるが、当時の機関誌「鳳翺」には部員の意見としてもあり、筆者もまた主将就任の抱負で現実の問題として少し触れている (「鳳翺」2 号、P147-149、1964)。

また、WV 部は本来勝敗や記録に立ち向かうスポーツ団体・大学体育会に所属してはいるが、自然を対象として活動する部であり、男女部員同居という面からも特殊である。勿論、どのスポーツにも男女混合競技があるので、同居と言う表現は誤解を招くが、すべての部活動においては厳密な格差はない。部員のキャリアは様々であり、創立期の本部 WV 部では女子部員も比較的多く、資料によると、年度の部員数 (男/女) は、1962 年 32 (26/6)、1963 年 84 (75/9)、1964 年 82 (75/7)、1965 年 91 (80/11)、1966 年 82 (70/12) であった。

どの部もそうであるように、男女部員問わず新入部員の経歴は勿論、一般に体力・気力も多様であり、自然への対峙は個性あふれるものであった。それがまた WV 部員の人間性であり、WV 部の魅力でもあったのである。活動の経験を重ねるごとに、部員それぞれたがわず逞しく成長していったものである。

なお女子部員についての筆者の経験であるが、1964 年 4 月に開催された関西合ワシ (広島大主管、八幡高原) へ男女部員数名で参加した。現地ではワンデリングの各パーティー編成に、筆者 (当時第三期主将) も SL として加わったが、その時の CL が関西の女子大 WV 部の女子主将であった。この合ワシの印象・経

験から、男女部員同一に、部活動には技術的にもキャリアの点でも弛まぬ努力が必要だと感じたものである。

その後 1964, 65 年の WV 部内の女子部員たちの弛まぬ努力は、女子部員だけの単独パーティーの活動や、1966 年 9 月関西女子合ワシ（砥ノ峰高原）参加など大きな進展がみられた。さらに、後年女子部員の主将により、男子部員とともに輝かしい活動を展開するまでに成長していったことは誠に喜ばしいことであった。ただ、近年の OB 会総会において創立期に活躍した多くの女子部員たちの近況を聞かないのは年月の経過もあるが、なんとも寂しい限りである。

## 5. 三学部の部活動と統合・合同ワンデリング

創立期の学内三つの WV 部（本部・工学部・農学部）の活動状況を、一覧表に整理した。当初のそれらの活動状況の違いは学部の特殊性もあり大変興味深い。たとえば、資料②（P. 13）の農学部の「通学合宿」など、実習のある学部事情である。私見では当時の工学部 WV 部の合宿・FW では山岳志向がやや強い印象があった。それはともかく、1 年時山口での教養課程の間、互いに学部を越えた共同の部活動においては、同僚や先輩との新しい交流を得て、1 年間と言う短い期間であるが内容の濃い充実した日々を過ごすことが出来たと思う。時には部活動を離れて親密な交流により深い絆が生じることもあった。そのことは、当時「たこ足大学」と揶揄された学部分散の大学生にとって、その後の専門課程での大学生活やさらに卒後の社会生活にとっても貴重な体験であり、有意義なものであった。まさに、「輝いていた青春」の一コマである。

1 年時の筆者の経験を語ると、夏・春合宿で行動を共にした部活動仲間たちが、専門課程への進級とともに他学部へ分散して行き、それぞれ新たな WV 活動を展開していった。それはそれで新たな進展・成長として好ましいことではあるが、旧友との山行の機会が無くなっていくことに一抹の寂しさを感じた。再びどこかでパーティーを組み活動したいという思いは、どの部員の心にも納まったままであった。このことは三学部合同のワンデリング（三学部合ワシ）開催の気運にもつながり、三学部の協力により、ついに 1963 (S38) 年 6 月第 1 回学内合ワシが秋吉台・青少年の家下広場を CS として開催された。この合ワシ開催の経緯に関しては、本部の末国氏（40 年卒、故人）の記録（「鳳翻」2 号、P6、1962 年、「3 つの学部 WV 部間の交流・親睦、部活動技術の向上、開催の負担を均等にするため主管を持ち回りにする」）や工学部深川氏（41 年卒）の記述（「合ワシコースの調査に参加して」、「鳳翻」2 号、P83、1962 年）にも見られ、興味深い。なお、筆者も新主将（1963 年秋）の抱負として、部活動の充実と他大学との交流の便宜からも三学部合同の実現を語っている（創刊記念鳳翻 2 号、P. 147-48、1964）。



## 6. 新生 OB 会の設立

上述の三学部合ワン開催の気運は、その後半世紀近くも経過した 2000 年、創立期に活躍した OB 諸氏たちの熱い思いと努力により、本部・工学部合同の新生 OB 会設立（会長末国氏、副会長木山氏、就任期間 2000～2007 年）への道と繋がったものである。なお、この時期の OB 会設立の経緯については、副会長木山氏（農学部 41 年卒）の「たかが OB 会、されど OB 会」“想いを共有する者の集い”と題した詳しい報告がある（ON 通信鳳翻復刻第 1 号、2007/12）。その中に、OB 会の真髄として、「世代を越えた人との出会いを大切にすること」が語られている。そして、具体的な開催方法について、できるだけ皆が参加の機会を得やすることと、開催主催地の負担を少しでも軽減する為「全国持ち回り型開催」が提案され、そのための支部の開設も進められた。開催担当を支部持ち回りとする事は、前述の現役時代の三学部合ワン開催へ至る WV の心意気であろう。

創立期の三学部合ワン開催にみる三つの部連合・統合の心意気を背景として、30 余年後の創立期部員による新生 OB 会設立（上述）について、一つの写真を加えて補足する。以下写真（1968・S43/9/22 付）にあるように、WV 部 OB 達に



記念すべき OB 会の設立（於：山口）、1968/9/22

よる第 1 回 OB 会立ち上げのための初めての会合が山口で開催され、工学部 OB の深川氏（S41 年卒）が会長に推挙された。この会は 1970/S45/11 に第 2 回 OB 総会として宇部市の国民宿舎常盤荘で開催されている。その後、堺原会長（第 2 代主将）のもと、OB 会会則や山小屋計画も検討された。

なお、上述の 2000・H12 本部・工学部合同の新生 OB 会設立後は、よく知られているように 2007H19 に第 2 代山本会長、田村副会長の下、「鳳翻会」の名称とされ、さらに、2011・H23 に第 3 代武富会長、池富士副会長となった。その後、2016・H28 に第 4 代池富士会長、田中・田村両副会長、2018・H31 に第 5 代古谷会長、田村・矢谷副会長、そして 2022・H4 に第 6 代田村会長、三国・田原両副会長となり現在に至っている。

## 7. 部活動の基本姿勢と新たな展開

創立期 1962 年当初から、自然を対象とする WV 活動として、部活動の先達の他大学の活動状況を参考に春・夏合宿を部活動の中心として展開された。筆者の担当した 1963 年秋の第三期になり、それまでの活動方針を引き継ぎ、体力強化と活動技術・知識の習得の 2 つにさらに力を入れることとした。

まず先の 1 つの部員全体の体力強化には、新人・旧人錬成や週日のマラソンなどの体力強化トレーニングの実施である。その実践には、例えば水を満タンにしたポリタンクやレンガを積んだ（重力負荷）キスリングを背負い、肩に食い込むベルトを気にしながら急坂を登るボッカ訓練を行った。あまりのきつさに「もうこんなことはしたくない！」と本音を飲み込んで積極的に取り組んだ。

WV 部活動が全国の大学に広まるにつれて、体育会系としての WV 部の体力強化活動は益々盛んとなり、「錬成」と言う名のもとには次第に過激な傾向となっていた。過激な集団の錬成は、上級生の下級生に対する“しごき”という言葉で揶揄され、どこの大学部でも大なり小なり常態化するようになっていった。そして、とうとう 1965 年 5 月には東京農大 WV 部における「死のしごき事件」

（傷害致死事件）にまで発展し、世間を騒がせることとなった。さらに、1970 年 7 月には福岡大学 WV 部の北海道・日高山系のヒグマ襲撃事件がおこり、登山知識や部活動の内容が問われた。その後、高度経済成長、社会生活の安定にともなう健康志向も相まって、市民の自然への帰依、登山・キャンプ活動ブームが起こった。その後の大学 WV 部活動はどうかと言うと、健全なる若者たちの盛んな自然への回帰はどの時代も特に著しい変化はなく、むしろ近年は公私立を問わず多くの大学の部活動として親しまれる他、さらに高校・中学の部活動にまでも広まってきており、喜ばしいことである。

もう 1 つは活動技術・知識の習得である。WV 活動は対峙する自然の状況・変化により行動が左右されるので、その場の地形と天候を知ることが極めて重要である。そこで部員の研修はまず地図と天気図を読むことから始まった。地図は国土地理院発行の 50,000 分の 1 や 25,000 分の 1 地形図を用い、そこにある等高線から描かれている地形がどんなものか、どれくらいの起伏・傾斜地があるかを知る。今でこそスマホの地図アプリや GPS があるので地形を容易に知ることが出来て便利がいいが、当時として地形図は必携アイテムであった。

また、現地の気象状況は日々の行動に関わる事なので、気象予測は活動の基本である。一般的に、山間部・農地や海岸では古くから、読んで字の如く“観天望気”があり、当時はラジオの気象通報が明日の天候を知る重要な手段であった。山や半島・島々を活動の場とする WV としては、台風や雷など大きな気象変動は活動に致命的となるので、“観天望気”に頼るのでなく、もつと局地的に具

体的な気象状況を予測するための天気図が必携であった。そこでラジオからの気象情報を正確に聞き取り、自ら現地の天気図を作成する必要があった。現在は気象衛星アメダスなどにより、台風や豪雨の線状降帯まで即座にかなり具体的に予報され便利であり、まさに過去約 60 年の人類の科学技術の進歩である。

## 8. 創立期の「機関誌」活動記録一覧

| 発行年月            | 名称        | 頁   | 備考 編集者代表 (後記) |
|-----------------|-----------|-----|---------------|
| 1 1963・S38/2/1  | 「鳳翽」創刊号   | 66  | 永沼氏           |
| 2 1964・S39/3/1  | 「創刊記念号」*  | 204 | 嘉村・久保田・出島各氏   |
| 3 1965・S40      | 「あるきの記」1号 | 185 | 岸村氏           |
| 4 1966・S41/2/28 | 「あるきの記」2号 | 171 | 壇上氏           |
| 5 1967・S42/3    | 「あるきの記」3号 | 169 | 野口氏           |

\* 「ときは」(工学部)、「巖流」(農学部)、「鳳翽2号」(本部)の合本

上記、創立期に発行された WV 機関誌に加え、創立 50 周年特別号として編纂・発行された「あるきの記」(2012/8/10、編集委員長古谷氏)の貴重な記録を参考として、以下、創立期の活動開始から年次を追ってその活動(主に夏・春合宿)を写真で振り返る。

## 1962年(S37)

**WV創立期** yuwv機関誌「鳳翽」創刊号(1963/S38)の活動記録より抜粋 ①

|  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>本部</b>(経済・文理・教育)</p> <p>・1961(S36)/秋,創案<br/>山口・鳳陽寮</p> | <p><b>工学部</b></p> <p>・1961(S36)/秋,創案<br/>宇部・堂盤寮</p> | <p><b>農学部</b></p> <p>・1961(S36)/秋,創案<br/>長府・松原寮</p> |
|--|---|---|



結成/創部(15名)  
華山(11名)  
下関・巖流島(12名)

**夏合宿(能登半島)**  
(5名)

**再結成**

秋期合宿  
大分・深耶馬,10名)  
**第1回中四合ワン**  
(岡山・蒜山,1名)

・/11 秋百舌詞耳

三学部 WV の創立期の活動の場は、上に掲げる資料①に示されているように、それぞれ起点となる山口、宇部、長府である。本部 WV 部の活動開始は、以下の



写真にあるように早春の東西鳳翻山でのリーダー養成合宿に始まる。そこに創部者たちの当時の雄姿がみられる。それはWV部活動の原点、1962、『YUWV元年』と言えよう。

WV 歴史の始まり、  
リーダー養成訓練東鳳翻山 1962/4/6-9

また、新学期を迎えた4月の新入生歓迎ピクニックは25名の参加で盛会であった。筆者もその一人として山口に来てまだ1月足らずではあったが、初めて東鳳翻山なる山に登った。創立期の古い部員は記憶にあるように、当時山頂直下の鞍部を少し下ったところにはかつて水場があり、汗かきかき、ふーふーと登ってきた山人達には、その水場の冷たい清水は美味しく、まるでオアシスのようであった。新入生の歓迎に、その水場での上級生たちが準備してくれた炊飯は楽しく、身軽な頂上への坂道もそれほど苦にならなかったのも、何と楽しい部活動かと思った。しかし、それがそもそのも誤解？ この時はまだその坂道が後に地獄のボッカ急坂となるとは誰も知る由もなかったのである。



入生歓迎  
ピクニック  
東鳳翻山下の水場

1962/4



東鳳翺山山頂下の鞍部下る水場での楽しい炊飯

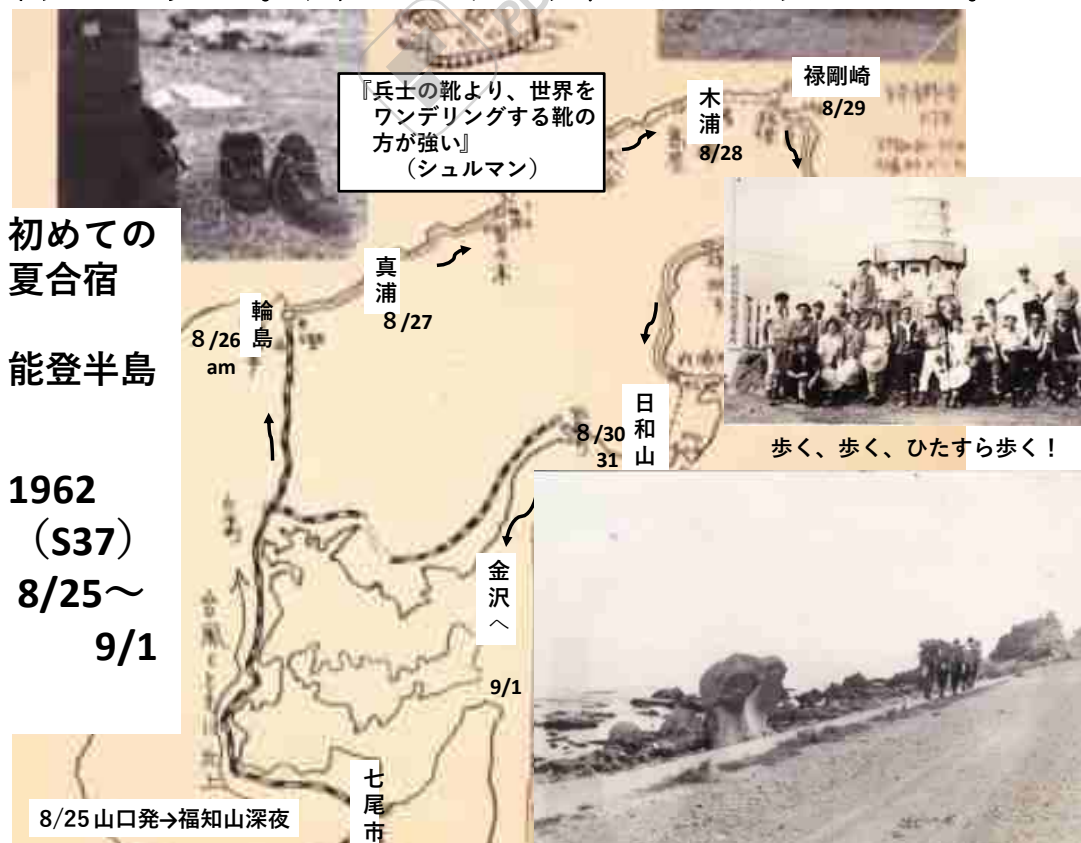


新入部員の活動 東西鳳翺山コース(1962・S37/5,7)

## 初めての夏合宿

1962年8月の能登半島ロードでの部員男女21名・3パーティーの参加した合宿は、創立期の記念すべき初めての夏合宿であった。今でこそ能登半島一周の交通機関も発達し、旅の温泉宿・宿泊施設も整い観光地として知られているが、当時は乗り物もなく、連日海岸沿いのロードを半島半周を歩きつめた。当時、山口駅を午前5時に発ち終日列車、深夜に福知山駅で乗り換え、ようやく翌朝輪島に着く。朝市のある輪島の街を列をなして歩く姿を、町の人々は戦後の買い出しの行列のようで何しているかと物珍しそうな顔で眺めていた（写真次頁）。また、キスリングに背負うワンゲル大鍋（写真中矢印）は当時どの合宿でも同伴し、若い部員の胃袋の面倒を診てくれた。この大鍋はいつまで現役で活躍したか知らないが、創立期の忘れられない名物部品の1つである。それとキャンプ地での激しい風雨から疲れた体を守ってくれた黄色いテントNo.1もWV部貴重な部品である。2つとも、部員にとっては多難なときの救世主のようなものであった。

なお、下図右の海岸の写真には筆者にとって特別な思い出がある。卒業後10年も経過したある年の夏、能登半島めぐりの機会があり、輪島から観光バスで半島の海岸沿いの道路を走り、禄剛崎へ向かった。走るバスの窓越しに美しい海岸の風景を眺めていた時、特徴ある見覚えのある写真の岩を見つけ、夢中でシャッターを切った。車中しばらくは一人、タイムスリップしていた。





木浦海岸で遊ぶ、Aパーティー 1962/8/28



禄剛崎灯台 Bパーティー 1962/8/29



能登半島・金剛崎、体育会費で買った初めてのテント、No.1

1962/8/29 金剛崎海岸

真夜中  
2時、  
山口駅発  
↓  
福知山駅  
乗り換え  
↓  
輪島駅に  
向かう



どこにでも持ち歩く  
ワングルの大鍋が  
大活躍！



合宿の目的地禄剛崎灯台に到着し、感激のあまり集合写真 (P. 11) だけでは納まらず、塔上に登り記念写真を撮る。また、写真右は 8 日間の初めての能登半島夏合宿を終えた 2, 3, 4 年生 (創部者) 先輩達の金沢・兼六園観光のいで立ちである。その姿には合宿からの開放感が溢れていた。夏セミの鳴く広い公園で、「オー！」と手を振る先輩の楽しそうな声、偶然撮ったオリンパスペンのシャッター音が聞こえるようである。



能登半島禄剛崎灯に登る



金沢・兼六園での先輩・創部者たち(1962/9)

## 1963 年 (S38)

YUUV機関誌 創刊記念号「ときわ」・「巖流」・「鳳翔」2号 (合冊、1964/539) の活動記録より抜粋

②

### 本部

#### ・ 1963(S38)

- ・ /1 山スキー (東鳳翔山, 2名)
- ・ /2 耐寒訓練 (東鳳翔山, 23名)
- ・ /3 1年春合宿 (霧島・高千穂)
- ・ /3 春合宿 (大隅半島, 19名)
- ・ /5 東西鳳翔山・秋吉台 (14名)
- ・ /5 東西鳳翔山 (7名・4名)
- ・ /6 第1回三学部合ワ  
(秋吉台, 27名)
- ・ /6 長門峡・山口 (10名)
- ・ /7 夏合宿  
(飯豊・朝日・吾妻・磐梯山, 20名)
- ・ /8 佐渡・北アルプス (3名)
- ・ /8 北アルプス (3名)
- ・ /10 英彦山・九重・阿蘇山 (4名)
- ・ /10 祖母・傾山・阿蘇山 (2名)
- ・ /10 恐羅漢・三段峡 (5名)
- ・ /11 第2回中四合ワ  
(八幡高原, 13名)
- ・ /11 学長杯駅伝
- ・ /12 鏡成スキー (4名)

### 工学部

#### ・ /3 春合宿

(霧島・高千穂・大隅半島)

#### ・ リーダ養成春合宿

(九重・祖母・傾山, 12名)

#### ・ /6 第1回三学部合ワ

#### ・ /7 夏合宿 (白馬・鹿島槍, 6名)

#### ・ /8 夏合宿 (北海道, 6名・ 八甲田・八幡平, 7名)

#### ・ /11 第2回中四合ワ

(八幡高原, 4名)

### 農学部

#### ・ /3 春合宿

(霧島・高千穂・大隅半島)

#### ・ /3 春合宿 (九州縦断, 8名)

#### ・ /6 第1回三学部合ワ

(9名)

#### ・ /9 夏合宿

(紀伊半島縦断, 6名)

#### ・ /11 秋合宿

(大山, 14名)

#### ・ /11 第2回中四合ワ

(八幡高原, 8名)

#### ・ /12 通学合宿 (15名)

(東垂港湾埋立地)



1964/539/3 発行





船平山スキー (1963/1)



東鳳翩山 (女性部員の楽しそうな顔!) (1963/2)

初めての春合宿は、大隅半島合宿を前に1年生パーティーによる霧島合宿を行った。えびの高原を中心に韓国岳に登り、頂上より新燃岳、高千穂峰の素晴らしい眺望を望み楽しんだ(以下、頂上記念写真)。午後になり、直下に見渡せる大浪池へ向かい下って行った。しかし、それは未熟な新米ワンデラーにとって無謀な行動で、思わぬ春の残雪の笹深い脇道に迷い込み難儀し、リーダーの責任を痛感した苦い経験であった。

春の陽光の射す穏やかな大隅半島の七浦七曲りの合宿(19名)は天候にも恵まれ順調に進み、キャンプ地ではのんびりした楽しい日々であった。

**初めての春合宿**  
1963/3  
霧島・高千穂  
1年パーティー  
大隅半島

韓国岳

新燃岳・高千穂峰

3/17 佐多岬

伊座敷より遥か開聞岳を望む

11 内ノ浦-川口

12 内ノ浦-川口

13 川口-辺塚

14 辺塚-沢渡

16 沢渡-大泊

17 大泊

七浦七曲りの海岸線

18 大泊-伊座敷

佐多岬

1年パーティー韓国岳頂上より、高千穂峰を望む

大隅半島をただ歩く、歩く、歩苦、歩苦!



1963/3/17春合宿 佐多岬灯台を後ろに、パーティー全員

「海がきれいのー!」

A パーティー→



「飯、うまいのー!」



合宿のある日昼飯  
メザシ2匹と梅干1個

矢印：左腕のワッペン“山口”

### 大隅半島春合宿

大浦 1963/3/14



ある日、格傍での昼食



### 初めての学内合同ワンデリング 1963(S38)/6/8~9



教育学部のトラックを借りて、人と物を秋吉台まで運ぶ

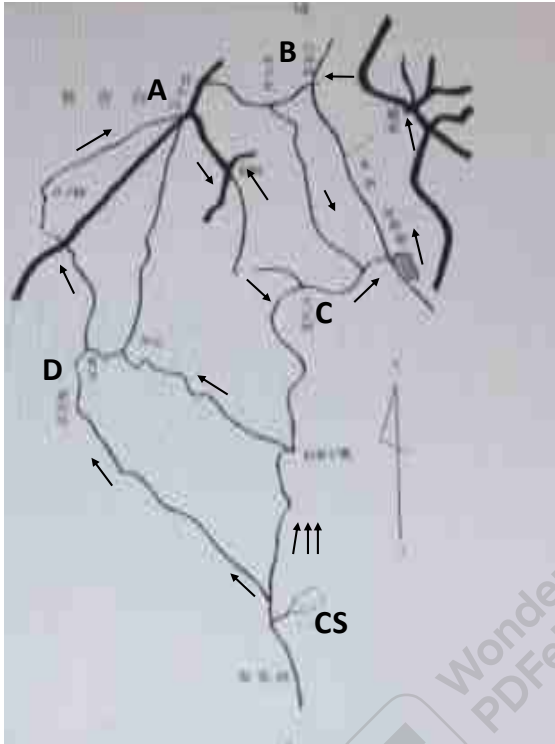
記念すべき第1回学内合ワン大会開催(1963/6)の経緯については上述した(P.5)。秋吉台で初めて開催された本大会(委員長：第2代目主将塚原)は、学部分散で活動が分断される山口大学WV部の新しい展開を



期待する大会であった。

合ワン風景「ご飯だ、ご飯だ、さー食べよ!」

当時の大学 WV 部活動の実態を俗に敢えて造語で表現すると、「異所合体」というところである。2年後、この合ワন開催式の同じ場所で、主管として第4回中四国合同ワンデリングの閉会宣言（大会委員長：第4代主将秋山）がなされるとはまだ誰も知らなかったのである



**初めての三学部学内合ワন  
1963/S38 6/8～9**

**CS**:秋吉台・青少年の家下広場

**A** パーティー  
→長者ヶ森 → 帰水 → 大正洞 → 宮の馬場  
→ 保ヶ原 → 桂木山

**B** パーティー  
→長者ヶ森 → 帰水 → 大正洞 → 宮の馬場  
→ 鯨岳 → 山中峠

**C** パーティー  
→長者ヶ森 → 黒岩 → 山領 → 鑑峠  
→ 河原谷 → 大正洞

**D** パーティー  
→ 鍛冶屋 → 殿河内 → 日の峰 → 桂木山  
→ 鑑峠 → 大正洞

**夏合宿**  
1963(S38) 飯豊、朝日・吾妻  
7/23 朝日連峰  
24 米沢→25吾妻山→27 小野川湖→  
29磐梯→30 解散  
鶴岡



**A** パーティー  
朝日岳・吾妻山連峰

ニッコウキスゲが美しい!



初めての雪渓



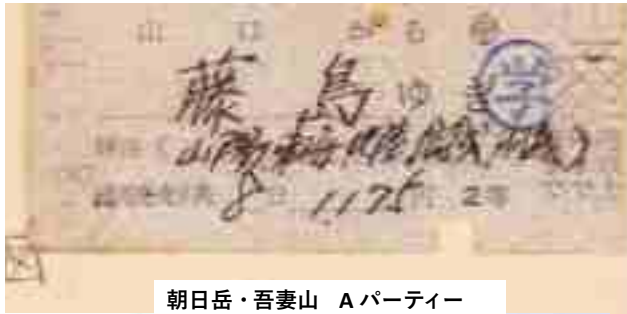
肺活量合わせて10,000cc?



神秘的な大鳥池

**B** パーティー  
飯豊山連峰





朝日岳・吾妻山 Aパーティー



夏合宿  
1963/7

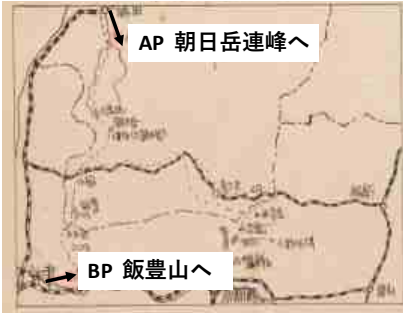


1963 (S38) 夏合宿  
7/22 飯豊山連峰・梅花皮  
大雪渓をバックにBパーティー (左上)

飯豊山頂から大雪渓を横目に、  
大鍋を背負っての縦走 (右上)

縦走を終えて、長く厳しい梶川峰  
下山途中のBパーティー (右下)





解散後、初めての  
ヒッチハイクで  
郡山へ



美しい小野川湖畔の夕暮れ

7/27  
小野川湖畔でキャンプ

夏合宿 飯豊、朝日・吾妻  
磐梯山  
1963(S38)/7/17 -30





先輩に連れられて、初めての北アルプス  
FW 1963(S38)/8/3 - 8/10

富士山 南アルプス連峰 穂高連峰 焼ヶ岳



鷲羽岳をバックに 吉永&加藤



黄色いテントに寄る近年では珍しい  
ライチョウの群れ  
三俣蓮華テント 1963(S38)/8



北アルプス 二景  
槍ヶ岳山頂にて  
永沼 & 加藤  
(オリンパス P)



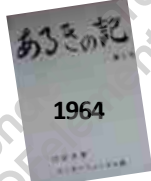
1963年(S38)11月22～23日、第3回中国四国合同ワンデリングが広島大学主管で芸北の八幡高原で開催され、山口から13名が参加した。晩秋の芸北は、小春日和のさわやかな気持ちよい午後であった。しかし、突然同僚の携帯ラジオが、ケネディ大統領の暗殺事件を報じた。あまりに突然で場違いなニュースに頭がボーとしていた。その場の某君はと言うと、「わしゃーすぐ帰らんといかん!」「どうして?」「イヤー、ジャッキー(夫人のニックネーム)を慰めに!」、そんな他愛ない会話が耳に残って居る。



中四合ワン参加メンバーの楽しそうな顔 合ワンキャンプファイヤー 1963/11

# 1964年 (S39)

| 本部  | 工学部  | 農学部   | ③ |
|---|--|---|---|
| <p><b>• 1964(S39)</b></p>   |  |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• /1 耐寒訓練</li> <li>• /3 春合宿<br/>(祖母・傾山, 背梁, 九重, 17名)</li> <li>• /4 リーダー養成合宿 (9名)</li> <li>• /4 写真展 (学生ホール)</li> <li>• /4 関西合ワシ (八幡高原, 4名)</li> <li>• /4 鳳凰山PW (16名)</li> <li>• /5 新人合宿 (鳳凰・秋吉台, 31名)</li> <li>• /5 県内合ワシ (裏鳳凰, 35名)</li> <li>• /5 長門峡PW (3名)</li> <li>• /5 大山PW (5名)</li> <li>• /6 大山・ダツヤPW (4名)</li> <li>• /6 長門峡PW (4名)</li> <li>• /6 旧人 錬成 (徳佐・萩, 8名)</li> <li>• /7 プレ夏合宿 (瑠璃光寺)</li> <li>• /8 夏合宿 (石鏡・剣山系, 32名)</li> <li>• /8 関西女子合ワシ (京都, 6名)</li> <li>• /10 秋合宿 (与那半島・長門路, 21名)</li> <li>• /11 大学祭写真展</li> <li>• /11 第3回中四合ワシ (大川嶺, 19名)</li> <li>• /11 学長杯駅伝 (18名)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• /1 スキー合宿 (大山)</li> <li>• /3 春合宿 (屋久島・種子島, 11名)</li> <li>• /4 学内合ワシ調査 (鳳凰山一帯)</li> <li>• /5 新人 歓迎合宿<br/>(秋吉台周辺, 15名)</li> <li>• /5 県内合ワシ (裏鳳凰)</li> <li>• /6 学部長杯駅伝</li> <li>• /6 合日合コン (妙高, 3名)</li> <li>• /6 写真展と装備展 (市役所)</li> <li>• /8 夏合宿 (飯豊・朝日縦走, 19名)</li> <li>• /11 耐久徒歩レース<br/>(萩-宇部, 43名)</li> <li>• /11 ゼミナール (宇部青年の家)</li> <li>• /11 第3回中四合ワシ<br/>(大川嶺, 9名)</li> <li>• /11 学長杯駅伝 (15名)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• /3 春合宿<br/>(山陰路, 6名)</li> <li>• /4 新人合宿<br/>(寂地・冠山, 10名)</li> <li>• /5 合ハイ (下関文化<br/>服装女学院, 18名)</li> <li>• /5 県内合ワシ<br/>(裏鳳凰, 6名)</li> <li>• /7 峯山道標立 (8名)</li> <li>• /8 夏合宿<br/>(石鏡・剣山系, 6名)</li> <li>• /10 祖母・傾山PW(2名)</li> <li>• /11 南アルプスPW (3名)</li> <li>• /11 第4回中四合ワシ<br/>(大川嶺, 6名)</li> <li>• /12 通学合宿<br/>(東垂港湾埋立地, 9名)</li> </ul> |   |



1965/S40/3 発行

裏大山・鏡成スキーFW  
1963/12/27-1964/1/1







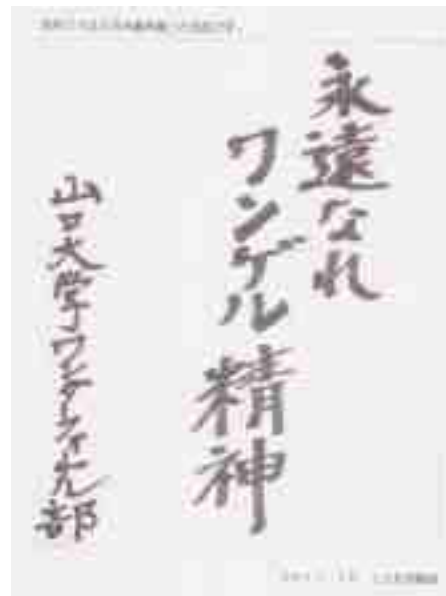
1964/1  
東鳳山  
耐寒訓練



(1965/1)  
雪がないある年、  
めっちゃ明るく楽しい耐寒訓練



闇鍋！  
寒い冬にはこんなこともありました。  
先輩永沼氏の誕生会 1964/2



初代主将永沼氏の”追い出しコンパ”で謹呈した色紙(1964/3)  
〔「あるきの記」創部 50 周年記念特別号より〕



1年生春合宿

久住連山、沓掛山

1964/3/12

元気のいい1年生パーティー



沓掛山 1964/3/12



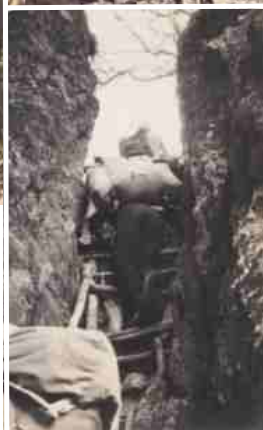
春合宿 祖母山 3/16

### 春合宿 祖母・傾山縦走 1964(S39)/3

傾山尾平越より祖母山連峰を望む  
それぞれしみじみと何を思う！ 3/16



春先の古祖母の凍り付いた急坂  
から、障子岳への梯子を登る







合流点の高千穂峡を目指して、黒原越下山ロードに行くパーティー

高千穂峡CSで記念撮影 3/18



楽しいエッセンと気持ちいい昼寝



「はい、よく撮れました」



キャンプファイヤー ”五輪の火輪”



大会開会式



キャンプ地のテント村

1964/4

東京オリンピックの年関西合ワ  
広島八幡高原 千丁原・聖湖 (主管広島大学)



|                        |              |
|------------------------|--------------|
| 新人錬成<br>東鳳翻山<br>1964/4 | PW<br>1964/4 |
|------------------------|--------------|

新人合宿  
東西鳳翻山→秋吉台  
桂木山  
1964/5  
皆笑顔、  
「こんな楽しいことが  
あるなんて！」

春の陽光の注ぐ楽しいワングルの日々、それは部員（石松氏、S42 卒）の句作「春の平原、ひねもすニタリニタリかな」に現れている。平原を他の部員名に変えても当てはまる、我がワングル史上に残る名句である。



# 夏合宿 1964(S39)/8/4-12

石鎚山・赤石山系、剣山山系



天狗岳頂上 Aパーティー



石鎚山系・瓶ヶ森



堂ヶ森の山サル2匹

# 夏合宿一石鎚山・赤石、剣山山系 1964(S39)/8/4-12



“馬の背を分ける尾根の霧”  
堂ヶ森尾根（上）



伊予富士に行く



瓶ヶ森より  
石鎚山を望む





誰の尻？  
A パーティ

シアザ峠 →  
子持権現の急坂を  
行く  
1964(S39)/ 8

## 1965 年(S40)

### 本部

#### • 1964(S39)

- ・/12 秋吉ゼミナール (31名)
- ・/12 十種ヶ峰偵察 (3名)
- ・/12 男岳 PW (2名)
- ・/12 東鳳翺 PW (3名)
- ・/12 1年合宿偵察・英彦山 (5名)

#### • 1965(S40)

- ・/1 リーダー養成 (十種ヶ峰, 9名)
- ・/1 雪上訓練 (十種ヶ峰, 20名)
- ・/1 耐寒訓練 (東鳳翺山, 12名)
- ・/3 1年合宿 (英彦山系, 15名)
- ・/3 春合宿 (県境, 21名)
- ・/4 リーダー養成 (秋吉台周辺, 4名)
- ・/4 関西合ワン (蒜山, 2名)
- ・/5 県内合ワン (秋吉台周辺, 41名)
- ・/5~6 新人錬成 (東西鳳翺山 5回, 76名) (秋吉台周辺, 16名)
- ・/6 公開ピクニック (東鳳翺山・錦鶏滝)
- ・/6 FW 長門峡・東西鳳翺・姫山平川 (3,7,4名)
- ・/6 徒歩レース (萩→宇部, 5名)
- ・/6 旧人錬成 (秋吉台周辺, 10名)

### 工学部



1966/S41/2 発行

#### ・/1 耐寒訓練

(東西鳳翺山, 8名)

#### ・/3 南紀PW (8名)

#### ・/3 春合宿 (大峰・大台ヶ原, 8名)

#### ・/3 県内ワンデリング (2名)

#### ・/4 リーダー養成 (秋吉台周辺, 4名)

#### ・/4 関西合ワン (蒜山, 2名)

#### ・/4 新入生歓迎 (花尾山・天井山, 15名)

#### ・/5 県内合ワン

#### ・/5 ボッカ (霜降山, 12名)

#### ・/5 新人錬成

#### ・/5 新人錬成 (秋吉台周辺, 9名)

#### ・/6 学部長杯駅伝 (25名, 優勝)

#### ・/6 耐久徒歩レース (萩→宇部, 25名)

### 農学部

④

#### ・/1 華山・クルソンFW (1名)

#### ・/3 春合宿

(霧島山群, 6名)

#### ・/3,4 祖母傾山、南九州、福地・尺岳 PW、(各1名)

#### ・/4 リーダー養成 (秋吉台周辺, 5名)

#### ・/4 関西合ワン (2名)

#### ・/4 合ワン調査 (花尾山, 3・4名)

#### ・/4 新人訓練 (華山, 5名)

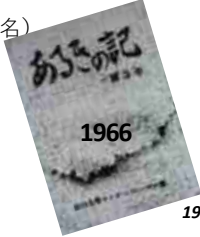
#### ・/5 県内合ワン (秋吉台周辺, 7名)

#### ・/5 錬成合宿 (尺岳・福智, 5名)

#### ・/6 耐久徒歩レース

(長府→下関, 15名)



| 本部  | 工学部   | 農学部   | ⑤   |
|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /7旧人錬成 (長門峡, 17名)</li> <li>・ /7 プレ合宿 (瑠璃光寺, 45名)</li> <li>・ /7夏合宿 (東北, 39名)</li> <li>・ /9 第二夏合宿 (傾山・祖母, 11名)</li> <li>・ /9 中四合ワン調査 (2名)</li> <li>・ /10 秋合宿 (26名)</li> <li>・ /10 中四合ワン整備(10名)</li> <li>・ /11 リハーサル(31名)</li> <li>・ /11 整備 (12, 15名)</li> <li>・ /11 セミナー (5名)</li> <li>・ /11 第4回中四合ワン (秋吉周辺, 38名)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /8夏合宿 (黒部・南アルプス, 20名)</li> <li>・ /10 久住・祖母・傾山 PW (3名)</li> <li>・ /10 中西合ワン調査</li> <li>・ /10 大山PW (3名)</li> <li>・ /11 第4回中四合ワン (20名)</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /7犬ヶ岳・鳳翽山 PL (1, 1名)</li> <li>・ /7本部夏合宿 (1名)</li> <li>・ /8 由布岳PW(1名)</li> <li>・ /9 大山PW (4名)</li> <li>・ /10 中四合ワン調査</li> <li>・ /11 リハーサル (1名)</li> <li>・ /11 調査 (3名)</li> <li>・ /11 第4回中四合ワン (4名)</li> </ul> |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /11 学長杯駅伝</li> <li>・ /12 十種ヶ峰偵察</li> <li>・ <b>1966(S41)</b></li> <li>・ /1第1回雪上訓練</li> <li>    第2回雪上訓練 (十種ヶ峰)</li> <li>・ /2 部創立記念日 (講演その他)</li> <li>・ /3 1年春合宿 (国東半島, 19名)</li> <li>・ /3 春合宿 (九州ロード, 4名)</li> <li>・ /4リーダー養成 (長者ヶ原周辺, 6名)</li> <li>・ /4公開ピクニック (錦鶏滝・鳳翽)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /1スキー合宿 (大山, 1名)</li> <li>・ /1 耐寒訓練 (十種・青野山, 8名)</li> <li>・ /2 耐寒訓練 (花尾山, 5名)</li> <li>・ /2 学部長杯駅伝</li> <li>・ /3 春合宿 (四国, 12名)</li> <li>・ /4リーダー養成 (長者ヶ原周辺, 8名)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /4 公開徒歩レース</li> <li>・ /5 2年新人錬成 (華山)</li> </ul>  |  |
|   |   |   | <p>1967/S42/3 発行</p>  |



リーダー合宿、十種ヶ峰 1965(S40)/1

### 春合宿 山口・島根県境、1965(S40)/3/1419



残雪の冠山山頂 (Aパーティー)



県境・深谷大橋

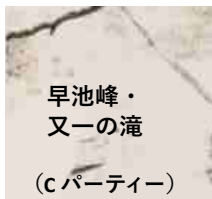


県境の山越え  
(Aパーティー)

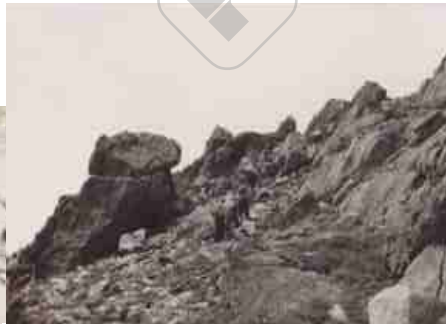


全パーティー集合後、長者ヶ原 → 山口ロード

### 夏合宿 東北・早池峰、1965(S40) 7/25-27



早池峰・  
又一の滝  
(Cパーティー)



早池峰山頂直下岩場



早池峰中腹ハイマツ帯



早池峰—鶏頭山縦走



### 第4回中四合ワシ (主管校：山口大学 1965/S40/11/2023)



開会式：大会委員長・主将秋山氏挨拶  
(山口大学経済学部グラウンド)



壮観！ 秋吉台上を行く長蛇の列



閉会式：  
秋吉台  
青年の家下  
広場



朝日新聞後援 「wv写真展」







あの年、  
あの日の  
秋吉台

第4回中四合ワンの舞台  
秋吉台・長者ヶ森  
1965(S40)/11



# 1966年(S41)

雪上訓練 十種ヶ峰、1966(S41)/1松の内



雪をかき分けて山頂目指して直登



雪上ベースキャンプ場



雪上訓練参加メンバー



十種ヶ峰山頂





雪上訓練 十種ヶ峰



楽しそうなメンバー  
雪の鳳凰山 春プレ合宿  
Bパーティー--

春合宿 1966(S41)/3



福江・高浜海岸を牛と歩く（“まさに牛歩”）



絶景の海岸線をうなだれて！  
（疲労困憊？） 3/12（上）



上五島・立串  
（Bパーティー） 3/12（左）

福江島・玉ノ浦教会  
3/11（右）



| 本部  | 工学部  | 農学部   | ⑥ |
|---|--|---|---|
| <b>1966(S41)</b>  |  |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /5 県内合ワソ (長者ヶ森周辺 38名)</li> <li>・ /5 部長杯マラソン (第1回37名)</li> <li>・ /5 長門峡FW (7,17名)</li> <li>・ /5 新人錬成 (7名)</li> <li>・ /6 大山、三瓶山PW(2,2名)</li> <li>・ /6 東鳳翻山・男岳、矢根山、ダツヤPW (10,11,10,9名)</li> <li>・ /7 旧人錬成 (山口周辺山々, 19名)</li> <li>・ /7 プレ夏合宿 (瑠璃光寺, 43名)</li> <li>・ /7 夏合宿 (尾瀬・谷川・奥秩父♂37名♀9名)</li> <li>・ /9 関西女子合ワソ (砥ノ峰高原2名)</li> <li>・ /9 リーダー養成 (帰水, 10名)</li> <li>・ /10 秋合宿調査 (県境、大島, 29名)</li> <li>・ /10 第3回耐久徒歩レース</li> <li>・ /11 第5回中四合ワソ (剣山山系, 20名)</li> <li>・ /11 大山PW (2名)</li> <li>・ /11 大学祭展示</li> <li>・ /12 学長杯駅伝 (11位)</li> <li>・ /12 部長杯マラソン (第2回, 40名)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /4 新入歓迎合ハイ (霜降山, 13名)</li> <li>・ /5 県内合ワソ (長者ヶ原周辺, 15名)</li> <li>・ /5 新人歓迎ゼミ (20名)</li> <li>・ /5,6 錬成 (花尾山, 21名)</li> <li>・ /6 写真展</li> <li>・ /8 夏合宿 (南アルプス8名, 白山8名)</li> <li>・ /9 秋合宿 (15名)</li> <li>・ /10 第3回耐久徒歩レース (萩-宇部, 21名)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /6 市内三大学合ワソ (市大・梅光・女学院参加)</li> <li>・ /6 連絡会議 (於:工学部、テーマ夏合宿)</li> <li>・ /7 夏合宿錬成 (四王士山)</li> <li>・ /8 夏合宿 (能登半島)</li> <li>・ /10 錬成 (風師山・戸上山・足立山)</li> </ul> |   |
|   |  | <p>・ /10 平川地区への移転</p>   |   |
|   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ /11 第5回中四合ワソ (剣山山系)</li> </ul>   |   |



ある年の新人錬成 東鳳翻山 長者ヶ原での WV 部旗の初披露 (1966/6)



夏合宿 雲取山 1966/8

## 本部

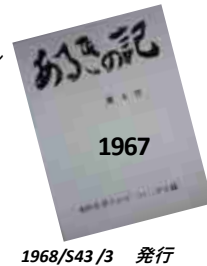
## ・1967(S42)

- ・/3 春合宿 (霧島・霧立越・九重・祖母嶺40名)
- ・/3 1 年合宿 (隠岐, 19名)
- ・/4 リーダー養成 (秋吉台中心, 7名)
- ・/4 県内合ワン新人合宿コース調査(12名)
- ・/4 新人合宿 (笹ヶ原, 40名)
- ・/5 県内合ワン (長者ヶ森, 31名)
- ・/5 ~6 新人錬成 (東西鳳凰山系, 50名)
- ・/5 部長杯マラソン (春第2回, 11名)
- ・/6 2年生ピクニック (長門峡9回)
- ・/6 長門峡PW (3名)
- ・/6~7 夏合宿 パーティーPW (21名)
- ・/7 リーダー養成 (長門峡, 12名)
- ・/7 プレ夏合宿 (瑠璃光寺, 38名)
- ・/7 夏合宿  
(飯豊・朝日・吾妻・月山・安達太良山32名)
- ・/10 屋久島、大山、九重PW (1,3,2名)
- ・/11 大学祭展示
- ・/11 公開ワンデリング (帰水, 14名)
- ・/11 部長杯マラソン (秋第2回, 25名)
- ・/11 中四合ワン (宮島弥山, 13名)
- ・/12 学長杯駅伝 (Aチーム19位)
- ・/12 忘年合宿 (瑠璃光寺) ・/12 雪上訓練用薪集め (十種ヶ峰, 6名)

## 工学部

⑦

- ・/3 春合宿 (祖母・九重5名)
- ・/3 春合宿 (天草5名) 新入歓迎合宿
- ・/4 華山・桂・天井・花尾  
長者ヶ森PW
- ・/5 耐久徒歩レース (萩一宇部, 26名)
- ・/5 工学部夏合宿候補地決定 (26名)
- ・/6~7 錬成 (霜降山)
- ・/8 夏合宿 (大雪山~十勝岳9名)  
(石狩岳~大雪山9名)  
(長者ヶ原周辺, 15名)
- ・/10 大山・九重PW
- ・/11 花尾山 81名
- ・/11 関西合ワン(宮島, 8人)
- ・/11 宇部・教念寺  
(リーダー交代, 27名)
- ・/11 部長杯マラソン  
(8名)
- ・/12 学長杯駅伝  
(21名、8位)



1968/S43/3 発行

## WV 部旗の変遷 (補遺)

山口大学ワンダーフォーゲル部の部旗の誕生とその変遷については、既に報告した『あるきの記』創部 50 周年特別号で「部旗の変遷 ~ 渡り鳥は行く」(P.9-10, 2012) が、この機会に少し補足する。創立の頃より部内でも、前ページ掲載(1966年5月の県内合ワン、徳地・長者ヶ原での旗揚げ風景)のような WV 部のシンボリックなものが求められていた。特に、1965年11月の第4回中四合ワン主催の折に、部旗が欲しいことを痛感した。そのようないきさつで、筆者の身内の画家(叔父加藤正信・故人、朔日会)にデザインを依頼したが、無謀にも独断で変更したことは先の報告の通りである。時間の余りある学生暇人、昼間から夜を徹した作業、大きな模造紙に、不遜にも一人で色はユニフォームのダークエンジ、文字や山は白抜きに、そして渡り鳥を飛ばしと素人ながらそれなりに奮闘した。朝まで煌々と電気のついている下宿の部屋を見て、大家は珍しく徹夜で熱心に勉強していると勘違いしていた。部旗が出来上がり、下の写真を入れて、謝礼は出世払いの断りの手紙を叔父に送ったところ、部員たち皆が喜んでくれてよかったという内容の返事だけが届いた。後で、私と従弟になる叔父の息子から「親父が怒っていた!」と聞かされ、身内とは言え、何たることかと恥じた。おまけに図柄の小さな原図は卒業後、就職(宇部)転居で紛失し、重ねて無念の思いである。



下図にあるように初代部旗は1966年(S41)8月の夏合宿の「東北」の集中地になびいている。よくぞここまで遙々持参し掲げてくれたと、合宿メンバー諸氏に感謝している。

初代が火災で焼失(1969/5/15)後も部員の努力で新たに再生・復活され、合ワンや合宿の集中地ではためていることを想うと感無量である。

部旗初代 山口瑠璃光寺での春プレ合宿で初披露! 1966(S41)/3

### 山口大学wv部 部旗の変遷



初代 昭和41年(1966)3月



2代 昭和56年(1981)創部20周年



3代 平成13年(2001)創部40周年



4代





夏合宿 1966/8 集中地 長野県「大空農場」  
初代部旗を掲げて



夏合宿 霧ヶ峰 1971/8



夏合宿 木崎 1972/8



ある年の忘年会 東鳳翻山 1976/12



夏合宿集中地 1982/7 第2代部旗（左）



そして、年々のOB鳳翻会総会でも活躍！



## 学内駅伝・マラソン

さて、体力強化の一環として駅伝・マラソンを積極的に取り組んだ話である。ただし筆者は走りを苦手とするところであって、在学中学長杯争奪駅伝では、いずれも精鋭チームではないBそしてCチームとして、参加賞のぜんざい一杯につられて4年間で4回も走った。思い起こせば、その駅伝でいずれも追い越されたことはよく覚えているが、追い抜いた記憶はあまりないので、チームの足を引っ張ったと反省している。当時の精鋭チームは7位と健闘した。工学部チームは2位であった。また、卒業年(1966)春に、部内で第1回の部長杯マラソンが始まり、その成果か、その後上記の学長杯争奪駅伝でも上位で健闘した。当初の学内体育会連絡会(主将会議)でのワングル部偏見の様子を思いだして、爽快な気分で、内心“でかしたぞワングル”と喜んだものである。



学長杯駅伝スタート (大学本部前、1963)



県陸上競技場広場 (1964)



WV 部チーム 7 位入賞  
(1964)



大学本部玄関前 (1965)



WV 部 駅伝精鋭チーム(1965)



第1回部長杯争奪マラソン大会開催 香山園・鶯張り石段にて撮影  
(優勝者:吉永、1966/5)

『若者よ  
身体を鍛えておけ、  
美しい心が逞しい身体に  
辛くも支えられる日が  
いつかは来る、  
その日の為に  
身体を鍛えておけ  
若者よ』



ケルンと疲れたキスリング  
1963 夏



「人類の繁栄と気候変動による地球自然の変貌があろうと、若者たちは自然と対峙し、たくましく生きてほしい」

注) 1962 加藤イラスト、ただし私にはそのような才は無い。記憶にないが、何かの漫画を真似て描いたのであろう！



## 『我が青春の街、山口』

1960年前半の旧山口大学のあった街の様子や近郊の風景を振り返る(永沼氏の同名のCD、2012/6引用)。鴻ノ峰から眼下に広がる山口市街地には、旧山口大学キャンパス、旧ザヴィエル教会、市庁舎などが、瑠璃光寺の国宝五重塔、せせらきの一ノ坂川なども見渡される。瑠璃光寺さまにはプレ合宿で大変お世話になった。夏のそのプレ合宿の早朝、境内でのすがすがしい散歩の気配は今も記憶の隅に残って居るから不思議である、瑠璃光寺境内の五重塔の凜としたその美しい姿が懐かしい。ただ、当時の写真と比べてみると塔の周囲の風景だけはすっかり様変わりしている。変わらないものは塔の姿と、入り口に立つ『不許葷酒入山門』という石柱(下図矢印)である。葷酒(くんしゅ)とあるのは、ネギ・ニラ、ニンニクなど臭いの強い野菜とか酒を嗜む不浄・乱心者は寺内に入ることを禁止するという意味であるというが、軍酒のようにも読めるので、兵と酒飲みは寺に入ってはいけないというわけで、自然を愛する若者の集いは歓迎！。







経済学部講堂



経済学部前ロード



我が青春時代  
(2) 大学キャンパス



蓮の花咲く堀



陸上競技・野球場



文理



我が青春時代  
(3) 山口市内/ 秋吉台

遠くに見えるのが、秋吉台  
青少年の家、秋吉台博物館



”お盆の  
提灯祭り”

山口初めての  
夏、  
田町通り  
(加藤下宿)  
1962(S37)/8



## 8. おわりに

山口大学ワンダーフォーゲル部創立 60 周年の記念に、記憶の断片と残され古い記録を手掛かりに、一応 WV 部創立時（1962 年）から筆者の在籍した 4 年間（1962～1966・S37～41）を創立期として部活動を振り返ってみた。具体的には執行部の年度から言えば、第一期から第四期の時代に相当するもので、本文執筆にあたり、資料・写真提供など協力頂いた筆者の後の第四期執行部（主将：秋山氏）OB 会員の方々に篤く御礼申し上げる次第である。

当時微力ながら先代から第三期執行部を託され、“第三代社長が会社を潰す”という世間の造言に抗して、部活動に集中した。なんとか三年時秋には強力な第四期執行部にバトンタッチすることが出来、次世代への期待感でとてもうれしかったことを覚えている。創立期以来、幾度かの運営危機や様々な困難を乗り越え、営々と引き継がれて 60 周年の今日を迎えることが出来た。長きにわたる歴史の中で、創立期から数年後にかけて目覚ましい発展をみせた時期を WV 部の「発展期」（「第 1 次黄金期」とも）と呼ぶなら、その礎は間違いなく創立期のあの“汗と涙と笑い”にあったものと思う。そして、草原の中で道を求める“やぶこぎ”の如く、部活動の方向性を探し求めた若者たちの過ごした創立期を「草分けの頃」と呼ぶにふさわしい時代であったと振り返り、当時の全ての部員たちの栄光を祝したい。

ただ、今思えば創立期はまだ行方定めぬ旅人集団故、どこでもある入退部・部員の出入りが多かった時期でもあった。青春の栄光の陰に、誰しもが今も少なからず心の隅に残っていることは、在部 4 年間の様々な時期に、途中で部を去って行ったかつての仲間たちのことである。それは基本的に各個人それぞれの大学生活と部活動との葛藤の問題であり、やむを得ないことであった。部活動と言う小さな一つの組織での出会いと別れであったが、年月を経た昨今、この広い社会で、OB 同期会や東西地区の山行同好そしてオープンな OB 鳳翔会ででも再会できることを願って“談話”を終える。



山口大学ワンダーフォーゲル部創立60周年記念総会談話  
2022/ 令和 4 年10 月23日 由布院倶楽部（九州支部） 第 3 代主将（昭和 38-39 年秋） 加藤征治  
skato224@gmail.com